

イエローグリーンキャンペーンの意義について

作田 学

日本禁煙学会 理事長

1) イエローグリーンライトアップ・リボンの意義

イエローグリーンは、「受動喫煙をしたくない・させたくない」というあなたの気持ちをあらわす色である(齊藤道也理事による)。これまで、京都、熊本、福島などで、それぞれの地に適するアイデアを駆使したライトアップ活動を中心とした活動が展開されてきた。受動喫煙の害は日常の身近な生活状況で起きることから、5/31の世界ノータバコ(禁煙)デー・禁煙週間にあわせ、イエローグリーンキャンペーンは今後さらに、全国への展開が期待される。全国各所の施設で、5/31前後にライトアップしていただくよう、管轄施設や行政などに要請し、広げていくよう、またイベントと連動させ、メディアへの広報を含め、皆さまのご協力をよろしくお願ひしたい。皆さまのご施設ではイエローグリーンリボンをどうぞ積極的にお付けいただきたい。バッジは禁煙学会事務局にお申し込みいただくか(500円)、ご自分でイエローグリーンの布テープを使い、ご製作いただきたい。

ただし、ライトアップやバッジを広めるだけでは十分ではない。トップダウンのアプローチと併せて、教育キャンペーン、広告、啓発活動などのさまざまな手段を組み合わせることが重要である。ライトアップやバッジは単なる象徴であり、それ自体が受動喫煙防止のための具体的な対策や政策を示しているわけではない。

したがって、ライトアップやバッジの配布に加えて、医師会などのトップダウンの関与や、より包括的なキャンペーンプランの策定が必要である。定期的な啓発活動や情報提供、受動喫煙防止措置の導入など、マルチレベルなアプローチを取ることが効果的な結果をもたらすと思われる。また、地元の自治体や企業、NPOなどと連携して行うことで、より広範な範囲での実施が可能となるだろう。この目的で日本禁煙学会はポスターの配布を考えている。日本におけるイエローグリーンライトアップ、バッジはすぐ

れたグラスルーツ運動の一つと言えるだろう。

日本医師会の2023世界ノータバコデーのビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=GuhxvivolwQ>

(閲覧日: 2023年10月31日)

2) ブルーリボン、イエローグリーンライトアップ・リボンの歴史

1999年カナダのプリティッシュコロンビア州リッチモンドにあるHugh Boyd Secondary Schoolが、ブルーのリボンをシンボルとする受動喫煙防止活動を開始。それが周辺に波及し、カナダ保健省が「Breath Air, Not Smoke」というキャッチフレーズを掲げ、運動を進めるまでとなった。

2003年ヘルシンキで行われた「タバコか健康か世界会議」ではブースを出し、参加者にブルーリボンをかたどったバッジを配布して、運動の国際的なアピールも行った。

この会議に出席した人から日本につたわり、東京都杉並区で個人が広めようとしたが、個人ということもあり、広まらなかった。

2012年のシンガポールでの「タバコか健康か世界会議」で、ブースでブルーリボン運動をアピールしていた(図1)。シンガポールでは国が音頭を取り、大々的にブルーリボン運動を広げた。

2002年に佐世保市は健康増進計画である「けんこうシップさせほ21計画」を策定したが、「イエローグリーンリボンバッジ」のアイデアは、その策定段階で生まれた。

本計画は、テーマごとに作業班を置き、各関係団体から選出された方々や、一般公募の市民が所属して計画策定に向けての協議を進めていたが、バッジの作製はそのなかの「嗜好班」の市民から出た意見がもとになっている。

バッジの色が「イエローグリーン(黄緑)」に



図1 2012年のシンガポールでの「タバコか健康か世界会議」で、ブースでブルーリボン運動をアピールしていた(写真は宮崎恭一先生による)。



図2 2020年ビッグパレットふくしまで開催された第14回日本禁煙学会総会におけるイエローグリーンライトアップキャンペーン

なった理由は、当時他のリボン運動で使用されていない色であり、かつ爽やかなイメージのある色を総合的に検討していった結果、最終的に「イエローグリーン(黄緑)」に決定した。(佐世保市保健福祉部健康づくり課による)

すなわち佐世保市のイエローグリーンリボンバッジは2002年に健康増進計画「けんこうシップささほ21計画」の策定時に作られたもので、世界禁煙デーでもイエローグリーンが使用された可能性はあるが、イエローグリーンを禁煙・受動喫煙防止のシンボルカラーとして使用したのは京都が最初である。

2014年5月31日に「2014年世界禁煙デー in 京都」が東山の名刹高台寺で開催され大盛況であった。

翌2015年も高台寺で世界禁煙デーイベントを実施することが2014年の秋に決まり、京都タワーなどのライトアップを同時に行おうという提案が当時のNPO理事長である安田雄司先生よりなされた。

NPOの理事会で、どのような色でライトアップを行うかという議論になり、禁煙のシンボルカラーは何色かという話になった。シンボルカラーは特に決まった色はないと思われたので、候補としてブルーかグリーンはどうかという意見がでた。ブルーは糖尿病や腎臓病、自閉症で既に使用されていたので、グリーンはJTを連想させる懸念もあるが、NPO理

事会ではグリーンでよいのではないかとということになった。

2015年1月になってイベント共催団体の京都府から「ライトアップは賛成だが、緑色は京都府として臓器移植、青色は糖尿病で広報しており、禁煙デーで緑色を使うと整合性が取れないのでその場合には京都府は参加できない」という連絡が入った。その後安田理事長が京都府の課長と相談し、「緑色と青色を合わせて黄緑色ではどうか」と提案したところ「それならOK」との返事があり、黄緑(イエローグリーン)に決定した。

この結果、京都では2015年の世界禁煙デーイベントを東山の高台寺で開催したが、京都タワー、京都府庁、京都市役所のライトアップが行われた。同時にイエローグリーンバッジも作成して配布した。当時の会員向けのメールで、安田先生が「(高台寺の)庭園内では新緑に囲まれたライトアップの美しさに堪能されましたし、遠くにはイエローグリーンにライトアップされた京都タワーが眺められました。31日夜も京都タワー、京都府庁や京都市役所が同じくイエローグリーンにライトアップされます。今後、京都では禁煙、受動喫煙防止のシンボルカラーになります」と宣言されている。(栗岡成人先生による)

その後、2018年には日本禁煙学会の会員が県議会

に働きかけて埼玉県行田市の忍城、2019年には彦根城のライトアップがおこなわれ、2020年には佐賀市、2021年には福山市、東広島市立美術館などへ少しずつ広がっていった。

大きく変わったのは2020年にビッグパレットふくしまで開催された第14回日本禁煙学会総会(会長:佐藤武寿福島県医師会長)においてであった(図2)。この時、実行委員長の齊藤道也先生を中心に「受動喫煙をしたくない・させたくない」というイエローグリーンキャンペーンが大々的に行われた。その範囲は広く、会津鶴ヶ城、福島県立医科大学、東北電力ネットワーク、いわき市医療センター、福島県医師会などがライトアップされ、TVでも取り上げられた。

その後、2022年3月に佐藤福島県医師会長が、日本医師会の役員の監事であることから世界禁煙デーにイエローグリーンライトアップを少なくとも各都道府県医師会館でまずはじめましょう!と、役員会で発言されたことで、日本医師会黒瀬常任理事担当でライトアップの動きがでた。3月には日本医師会報にイエローグリーンキャンペーンに関する記事を齊藤先生が寄稿された。

その後2022年の世界禁煙デーに熊本県では橋本洋一郎先生、高野義久先生を中心として熊本大学病院(時計塔、プロムナード)を、2023年には熊本城などをライトアップした。宮城県でも安藤由紀子先生を中心に県医師会館、仙台放送TV塔、角田市HIIロケットなど、山形県では川合厚子先生を中心とした四師会禁煙推進委員会がライトアップをおこなった。秋田県ではセリオンタワーをライトアップした。

愛媛県でも日本医師会報を受け、愛媛県医師会副会長の加藤正隆先生を中心として愛媛県庁、愛媛県医師会館などのライトアップをおこなった。

http://www.jstc.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=26

(閲覧日:2023年12月25日)

さらに2024年には尾崎治夫東京都医師会会長、小池百合子東京都知事もライトアップの準備を着々と進めている。

3) イエローグリーンライトアップのやり方

投光器を実際に使った山形県の山田修久先生におたずねをしたところ、アマゾンで4,980円で購入し、YG色の調整は本機とスマホを無線で接続し、スマホのアプリで行えると言うことである。

<https://x.gd/0gEgd>

<https://www.amazon.co.jp/s?k=MIKISEN>

(閲覧日:2023年12月25日)

4) イエローグリーンリボンの作り方

イエローグリーンの布テープを使って、13cm程度に切って二つに曲げ、中央を安全ピンあるいは日本禁煙学会のバッジで留める。あるいは結び目を作ると立体的になる。

下記のものは幅2cm長さ25mで2,500円であり、200人分ほど取れよう。

<https://x.gd/mmwhK>

<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1591768916688/index.html>

(閲覧日:2023年12月25日)